

校 園 名 : 筑波大学附属大塚特別支援学校

所在地 : 〒112-0003 東京都文京区春日 1-5-5

電話番号 : 03-3813-5569

記載日 : 2016年5月24日

記載者 : 根本 文雄

記載者役職 : 副校長

〈貴校の校風、おおまかな特色について〉

★創立の歴史は明治期にさかのぼる伝統校であるが、“世界水準の教育” を目指しているミライ志向の研究実践校です！

知的障害を主障害とする国立大学附属の特別支援学校として54年の歴史があります。明治41年(1908年)東京高等師範学校附属小学校の第三部に補助学級の名を冠した教育機関としてはじめて設けられました。幼稚部、小学部、中学部、高等部に加え、支援部(地域&校内)も設け、教育計画に基づいて、幼児児童生徒の一人ひとりに応じた教育を行っています。あわせて筑波大学の附属機関として、知的障害児の理論及び実際に関する研究を行い、教育実習や介護等体験を積極的に受け入れています。筑波大学附属学校教育局の掲げる三つの教育拠点構想を学校運営の柱とし、「連携」「向上」「発信」をスローガンに学校力を高め、知的障害教育の拠点としての自覚と使命をもって教育・研究を進めています。

【教育方針】子ども自身の願いや思いを大切に、自立と社会・文化への参加をめざし、発達及び可能性のより豊かな発現を図る。

【教育目標】

- ①主体的に生活(「くらし」「働く」「余暇」)に向かう力を身につける。
- ②生活を豊かにするために必要な知識・技能とそれらを統合し、よりよく問題解決をする力を身につける。
- ③人と共に様々な活動に参加する力を身につける。

〈貴校の卒業生の活躍状況について〉

卒業生に関しては、3年間アフターケアとして居住地域や職場を巡回し、サポートしている。進路担当教諭や高等部卒業時の担任を中心に全校の教員でサポートサポートしているのでほとんどのケースが把握されている。その情報は進路担当教諭が積み上げて把握している。

◎近年の進路先:外資系ホテル、外資系コーヒー店、ファミリーレストラン、大手牛丼チェーン店、ビアレストラン、スーパー、保育園、大手電話会社清掃、私立特別支援学校専攻科、4年制就労移行施設、福祉作業所、生活介護施設など。

〈貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況〉

現在本校では、主に千葉県、鹿児島県、沖縄県などと協定を結び、人事交流を行っている。人事交流後の追跡調査はしていないが、上記の県とは継続的に交流を行っているので、後任の方からその後の活躍状況を知ることができる。一番多いのは研究部長や研究部に戻られるケースが多い。その他は副校長や校長、指導主事や地域のコーディネーター、新人の教育担当係などになっている。

〈本校の教育活動と特色〉

◎ 「生活」 中心の教育

幼児児童生徒の学校生活は、幼児は幼児なり、青年は青年なりの生活経験を大切にした生活中心の学習で計画される。各学部の授業は、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習等の領域・教科を合わせた指導形態を中心学習として編成されている。学級や学年の仲間とともに生活上の題について、現実的かつ実際的な状況の中で繰り返し行うことで、見通しを持って主体的に具体的活動に取り組む。それにより、生活に必要な知識・技能・態度や習慣を身につけられると考え、開校以来、この基本姿勢を堅持している。



大塚祭ステージ発表 小学部

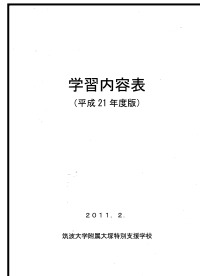
◎知的障害教育の教育課程

～「何を」「いつ」「どのように」指導するか？～

本校では、昭和 60 年代に検討された「経験内容表」と「教育課程」をベースに教育活動を立案する時代が続いた。やがて、障害の重度多様化が顕著になり個への教育対応を明確にする「個別の教育支援計画」を作成する取り組みを進めるとともに、特別支援教育の時代に即応するカリキュラムの在り方を模索してきた。



経験内容表から学習内容表へ



研究の成果としての出版



◎地域の拠点としての学校

支援部が地域における特別支援学校のセンター的機能を担う一方、



にこにこ広場 (幼稚部園庭解放)

幼稚部では子育て支援広場事業として園庭開放「にこにこひろば」を開催している。また、休日にはNPOが開催する「子どもの遊び場」「サッカー教室」「和太鼓クラブ」「音楽クラブ」ほか、障害者団体への施設提供を行っている。卒業生の保護者が設立した「桐親会」では、毎月の「青年学級」開催をはじめ、作業所「工房わかぎり」の運営、グループホーム開設など、諸事業に取り組んでおり、学校も連携し、地域の拠点として位置づいてきている。

大塚特別支援学校がめざすもの(2016年度)

3つの拠点(大学)

- 国際教育
- 教師教育
- 先導的教育

チームの力(大塚)

発信

連携

向上

重点プロジェクト

国際教育(オリ・パラ、等)

インクルーシブな教育(心のバリアフリー事業、等)

教材開発・ICT教育(ミライの体育館、等)

3拠点構想への取り組み

◎先導的教育拠点

〈学校研究〉

平成21年度より「特別支援教育時代のカリキュラムとは」をテーマに知的障害教育における系統性・一貫性のあるカリキュラムの在り方について研究を進めてきた。「関係の形成と集団参加」領域を中心に7つの領域で構成した『学習内容表』と授業作りプロセスモデルを追究して作成した『指導計画集』を活用した授業作りに取り組んでいる。各学部年2回以上の研究授業を行い、授業研究を積み重ねながら、学校全体で授業力向上に努めている。

〈地域支援研究〉

支援部では、文京区内の幼稚園・保育園、小中学校を中心に相談・支援活動を展開するとともに、研修協力、授業改善と学校力向上のためのコンサルテーション等に取り組んでいる。

〈教材教具開発研究〉

教材教具開発班を中心に各種の自作教材の蓄積と整理、展示、インクルーシブ教育への発信に努めている。



手作り教材例(製作講座もやっています)

〈超早期支援研究〉

筑波大学の中期目標を受け、超早期の教育的支援を、大学・特別支援教育研究センター・附属特別支援学校幼稚園と連携して継続研究する。



超早期視子活動

◎教師教育拠点

毎年2月に開催される「知的障害教育研究協議会」

と研究紀要の発行とともに、特別支援学校（知的障害）教員免許取得のための教育実習、小中学校教員免許取得のための介護等体験実習の他、主に以下の拠点活動を行っている。

- ・全国の特別支援教育教職員の視察参観の受入
- ・保育者研修（参観・講義・演習・実技）
- ・特別支援教育研究センター長期研修生の研修・研究協力
- ・大学の授業に講師として協力（指導法・演習・教師論）
- ・免許状更新講習「附属学校実践演習」
- ・全国の学校・教育委員会等の研修協力（助言・講演等）

◎国際教育拠点



モンゴル研修生との餅つき

年間を通じて諸外国の要人や JICA を通じての海外の教員研修を受け入れている。平成 26 年度には、アフガニスタン、アフリカの研修生が来校し、ダンスや音楽、体育を通じて交流を行った。また、平成 21 年度から、韓国大邱保明学校と研究協力協定を結び、両校の教員相互に共通する課題について研究交流を進めてきた。近年は「授業研究会の進め方」をテーマに意見交換を行う予定である。

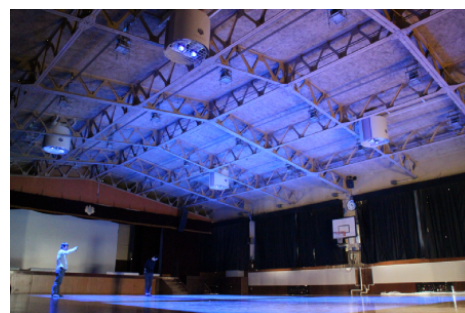
〈地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか〉

本校の所在地である文京区においては「専門家チーム」として困り感あるお子さんの支援を担っている。また中野区等近隣の通常学級の支援や特別支援学級の授業づくりの支援にも携わる等、東京や全国の特別支援教育を推進する役目を負っている存在であると感じている。

〈附属学校の存在意義、貴校の存在意義について〉

近年、本校では3つの重点プロジェクトに取り組んでいる。

①オリンピック・パラリンピック教育。②心のバリアフリー事業。③ミライの体育館である。いずれも知的障害特別支援学校においては先駆的、実験的な取り組みに全教師が一丸となって取り組んでいる。普段の生徒との関わり、授業づくりを大切にしながら、新たな教育プログラムの開発に邁進し、それらを発信し続けることが、大きな存在意義である。他の公立私立学校の皆さんに、モデルとされるような存在になることができることが我が校の存在意義の一つであると考えている。



世界初、プロジェクションマッピングによる授業作りをはじめます。